

## N14a 「あすか」による激変星 AXJ2315-592 の発見

寺島雄一、見崎一民、鎌田祐一、岩澤一司、田原譲、国枝秀世（名大理）石田学（宇宙研）

1995年11月2日に行なわれた、「あすか」による赤外銀河 IRAS23128-5919 の観測において、GIS 検出器の視野内 (R.A.= $23^h15^m18^s$ , Dec.= $-59^\circ10'42''$  (J2000), 精度  $1'$ ) に新しい X 線天体が発見された。この X 線源は周期  $5360 \pm 50$  秒の強度変動を示し、平均の X 線フラックスは  $2.3 \times 10^{-11} \text{ ergs cm}^{-2} \text{ s}^{-1}$  (2-10keV) であった。平均のスペクトルは、ほとんど吸収を受けていない ( $N_{\text{H}} < 10^{21} \text{ cm}^{-2}$ ) 非常に hard な熱制動放射 ( $kT > 20 \text{ keV}$ ) と電離した鉄からの強い輝線 (中心エネルギー 6.8keV, 幅  $\sigma \sim 300 \text{ eV}$ , 等価幅  $\sim 900 \text{ eV}$ ) であらわされ、このようなスペクトルの特徴と周期変動から、この X 線天体が新しい激変星であることがわかった。変動周期 (5360 秒)、吸収の少ないスペクトル、振幅の大きい変動などは AM Her 型激変星に典型的な特徴である。ところがエネルギー別の光度曲線を見ると、高エネルギー側ほど変動の振幅が小さくなっており、これは DQ Her 型にみられる特徴である。講演では強度、スペクトルの時間変動の詳しい解析結果と、考えられる幾何学的構造を検討した結果について報告する。